

令和4年度 有馬小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立有馬小学校 所在地：中央区日本橋蛸殻町 2-10-23

校長名：小林 一輝 児童数 653人 学級数 21 教員数 30人 職員数 30人

1 重点目標の達成状況及び取組状況

**重点目標 1 「わかった」「楽しい」を基本とし、高い学習意欲をもち、自分から探究する児童を育成する。**

**評価項目：**①考えること、話すこと、聞いてもらえることの楽しさを感じられる場面を意図的に設定した授業を構築する。

②少人数指導やステップアップ教室の実施などにより算数科教育を充実させる。

**評価指標：**①各種学力調査の質問紙調査、管理職による授業観察、及び年に2回、全教員が学習指導案を作成し、OJTによる授業公開を行う。

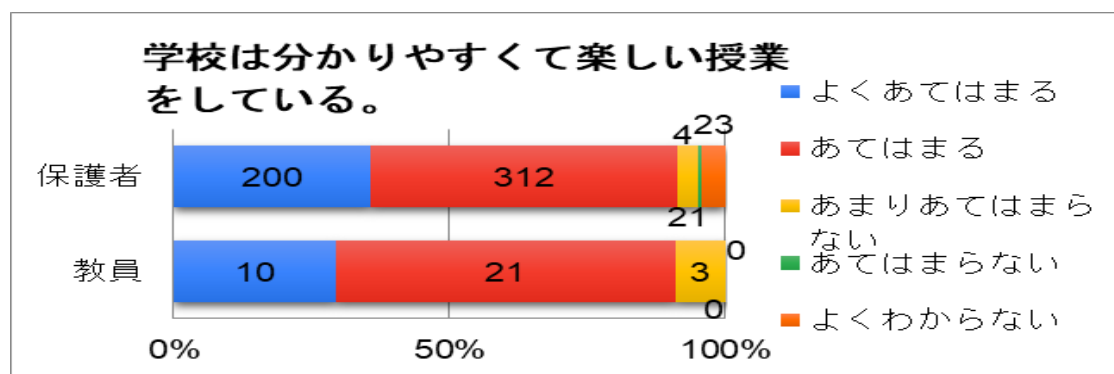
②計画的な算数少人数指導の実施。ステップアップ教室を年間30回以上実施する。

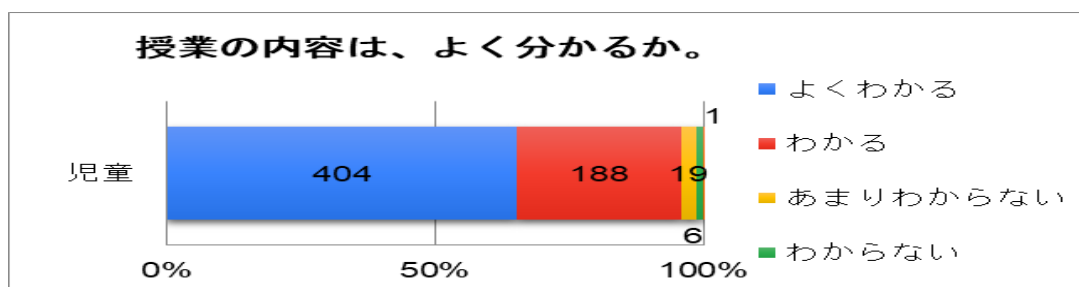
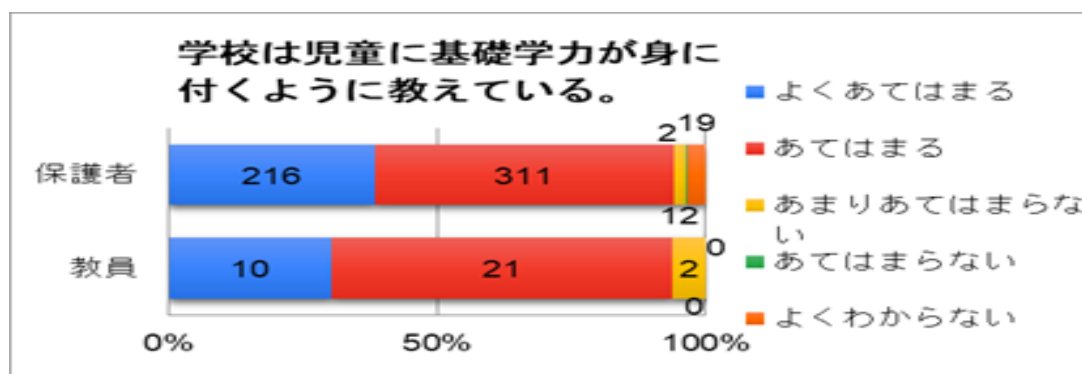
③児童アンケートで、「授業がわかる、楽しい」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

**達成状況：**①については、全教員が学習指導案を作成し、授業公開を実施した。小グループによるOJTを実施し、授業づくりや児童への対応等、喫緊の指導に役立つ研修を実施し、教員の資質向上に繋がった。

②については、算数少人数担当が中心となり、学習進度別授業で、個に応じた指導を実施した。学習内容の確実な定着のために、個人面談期間中の放課後や夏季休業期間に補習「ステップアップ教室」を30回実施した。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着については、算数で従来どおり東京都が推奨している「東京ベーシック・ドリル」の診断シート、練習シートを有効に活用し、第4学年までの学習内容の確実な定着を図った。知識・技能の定着については、他の教科においても重点として取り組み続けており、約94%の保護者が達成しているとの回答を得ている。また、教員の意識としても達成できていると感じていることが分かる。今後も基礎学力の確実な定着を目指し、学校全体で取り組んでいく。

③については、約96%の児童が、「授業がわかる、楽しい」と回答している。本年度は、各教科等において言語活動を意識した指導の工夫を行うと共に、ICTを効果的に活用した授業改善に取り組んだ。その結果、約90%以上の保護者や教員が、指導方法の工夫・改善が達成できたと実感していることがアンケート結果から分かる。今後も本校の研究を基に、教育活動を充実させていく。





**重点目標 2 「自分だけでなく、みんなが楽しい」を基本とし、人のために考え、行動することのできる児童を育成する。**

**評価項目：**①保幼小連携や、有馬エンジョイタイムなどの交流活動の充実を通して、全教員が、活動ありきではなく「活動中の心情や行動のふりかえり・次への行動目標を立てること」に重点を置き、児童の成長につなげる。

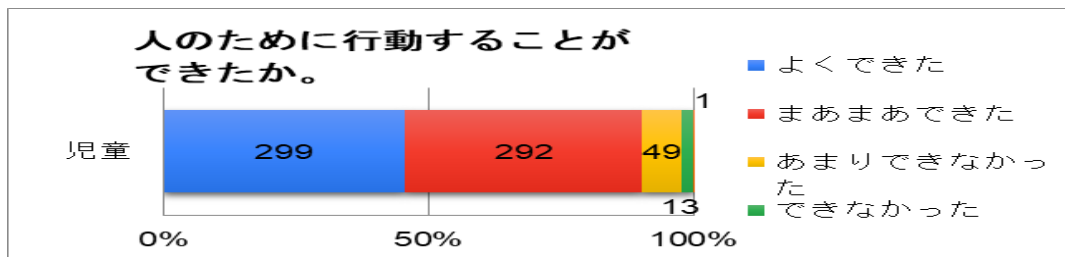
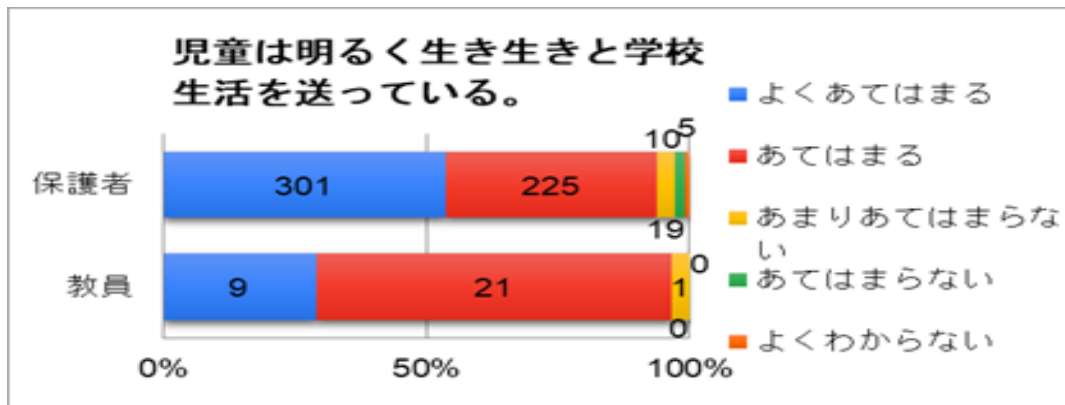
②他の人が喜んでくれることを自分の喜びとすることができる場面の意図的な設定をする。

**評価指標：**①保護者アンケートで「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

②児童アンケートで「人のために行動することができた」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

**達成状況：**①については、目標を達成することができた。コロナ禍における授業や行事等の工夫や、昨年度に比べ、以前のような行事ができるようになってきて、児童の元気な声が校内に響き渡り、笑顔が戻ってきたと実感できた。

②については、約91%の児童が、人のために行動ができたと答えている。全校朝会の校長講話で、「人にやさしく接すること」や「いじめは絶対にダメ」等、年間を通して伝え続けてきたことで、児童同士に友達を大切に、友達のために行動する意識が生まれてきたと考える。また、朝のあいさつ運動でも、当番でなくてもボランティアとしてみんなのために挨拶をするなど積極的な姿勢が生まれてきた。あいさつについては、学校、家庭、地域の連携を更に強化し、具体的な取組を提案し、これからも粘り強く取り組んでいく。



**重点目標 3 「できた」「楽しい」を基本とし、規則正しい生活習慣を身に付け、心身の成長、発達につながる体力を向上させる。**

評価項目：①睡眠・食事・家庭学習などの規則正しい生活習慣を整え、学校と家庭が連携し、自らが健康の保持・増進に努められる児童を育成する。

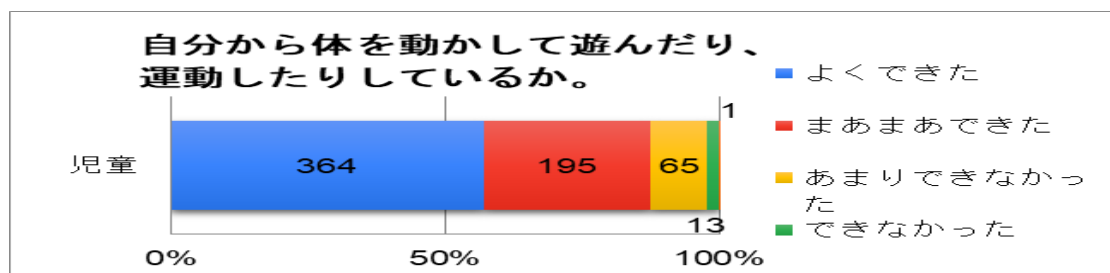
②「生涯スポーツ」を基本とし、日常的に自分の体力向上に進んで取り組むことのできる児童を育成する。

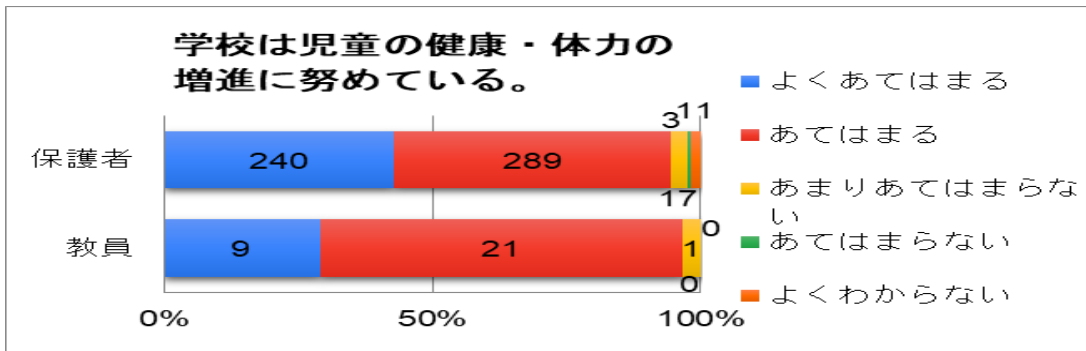
評価指標：①保護者アンケートで「学校は児童の健康・体力の増進に努めている」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

②マイスクールスポーツの充実（縄跳び・持久走）・外遊びの奨励、児童のアンケートで「自分から体を動かして遊んだり運動したりすることができた」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

達成状況：①については、約94%の保護者が肯定的な回答をしている。「ありまんピック」や「ARIMA RUN」を公開し、児童が全力で取り組む姿を見てもらうことができた。

②については、児童の約87%が肯定的な回答であり、他の項目と比較し低めである。校庭で元気に遊ぶ児童と室内で過ごす児童の二極化が見られた。また、運動に対して苦手意識のある児童へ体を動かすことの楽しさを体育の授業や休み時間を通して、教員が教えていく等の工夫が必要である。今後は、休み時間は、教員も一緒になって遊ぶ等、児童へ積極的に外遊びを促していく。





## 2 今後の改善方策

- ・今後もICT機器を効果的に活用した指導方法を工夫し、児童にとって「分かった、楽しい」と言える授業づくりをしていく。また、全教科、領域を通して、児童がより主体的・協働的に取り組むことができるように教員の授業力の向上を図り、毎時間の授業を充実させていく。
- ・保幼小連携や、有馬エンジョイタイムなどの交流活動を充実させ、全教員が、活動ありきではなく「活動中の心情や行動のふりかえり・次への行動目標を立てること」に重点を置き、児童の成長につなげていく。
- ・あいさつについて、朝のあいさつ運動だけでなく、児童会活動なども活用し、学校全体で問題意識をもって取り組んでいく。また、保護者・地域も含めて大人が模範となるようなあいさつの環境をつくっていく。